

短 報

# るかなびが市民に提供しているランチタイムミニ講座 & ミニコンサートの活動評価

－ 初回参加者のアンケート調査から －

佐藤 直子<sup>1)</sup> 高橋 恵子<sup>1)</sup> 有森 直子<sup>1)</sup>  
山田 雅子<sup>1)</sup> 菱沼 典子<sup>2)</sup> 佐藤 晋巨<sup>3)</sup>

## Activity Evaluation from a First Time Participant's Questionnaire of "Lunch Time Open Lecture on Health and Music Concert for the Public"

Naoko SATO, RN, MS, CNS<sup>1)</sup> Keiko TAKAHASHI, RN, PhD<sup>1)</sup>  
Naoko ARIMORI, RN, PhD<sup>1)</sup> Masako YAMADA, RN, MS, CNS<sup>1)</sup>  
Michiko HISHINUMA, RN, PhD<sup>2)</sup> Kuniko SATO, MA<sup>3)</sup>

### 〔Abstract〕

The "Luke Navi Lunch time open lecture on health and music concert for the public" occurs once a month at the St. Luke's College of Nursing. This study aimed to anonymously evaluate the participation in such an event using a questionnaire. The results indicated 493 participants had attended the event 20 times between May 2010 and May 2013, of which 178 had participated for the first time in this event. Based on the responses to the questionnaire, first-time participants experienced high levels of satisfaction. It was found that by providing a combination of the music concert and lecture, participants had a higher tendency to attend such an event. In addition to promotion via posters, the possibility of improving public relations using new media such as Twitter and the Web has been suggested as a manner of informing the public in the future.

〔Key words〕 activity evaluation, lecture on health for public, people-centered care

### 〔要旨〕

聖路加看護大学では市民を対象に月に1回「るかなびランチタイムミニ講座&ミニコンサート」を開催している。2010年5月から2012年3月までに年20回開催され、493名が参加した。うち178名のこの催しに初めて参加する人たちを対象に参加のきっかけと評価について無記名のアンケートを行った。初めて参加した178名のアンケートから、1) 参加した満足度は高く、講座とコンサートを合わせて提供することで気軽に楽しく参加していることが分かった。2) 今後の広報のあり方については地域のポスターだけではなく、インターネットやツイッターといった新しい媒体での広報の可能性が示唆された。

〔キーワードズ〕 市民健康講座, 参加者評価, people-centered care

## I. はじめに

聖路加看護大学では、市民一人一人が主体的に、専門

家をパートナーとして健康を創っていく people-centered care の実現のために、市民へ健康情報を提供する目的で2004年から健康情報サービススポット（通称聖路加健康

1) 聖路加看護大学 看護実践開発研究センター St. Luke's College of Nursing, Research Center for Development of Nursing Practice  
2) 聖路加看護大学 基礎看護学 St. Luke's College of Nursing, Fundamental Nursing  
3) 聖路加看護大学 図書館 St. Luke's College of Nursing, Library

ナビスポット：るかなび)を開設し活動を行っている。主たる活動は専門職による1対1の健康相談であるが、市民が気軽にるかなびを利用するきっかけづくりのために毎月1回無予約・無料で健康講座とコンサートを組み合わせた40分間の「ランチタイムミニ講座&ミニコンサート」という名称でイベントを開催している。開催地域の住民がリピーターとなり、毎回イベントに参加することを習慣にしている様子が見受けられるが、特に新しい参加者がどのように参加を決めているのか、またどのような思いで再利用を決めているのかはわかっていない。これまでの活動の状況を振り返るとともに、できるだけ多くの人にくるかなびの活動を知ってもらい、気軽に利用してもらうための効果的な運営について考えたい。

## II. 目的

本論文は、「るかなびランチタイムミニ健康講座&ミニコンサート」の活動状況の記述と、このイベントに初めて参加した市民を対象に、参加のきっかけと活動の評価を伺い、今後の活動内容の改善等に役立てることを目的とした。

## III. 方法

アンケート用紙は、2010年5月から2012年3月の期間に開催した健康講座の終了時に、毎回参加者(725名)に対して配布し、その場で回収した。アンケートの内容は、参加者の背景に加え、講座の理解や、コンサートへの満足、講座全体への満足を把握するもので、計20回の講座の参加者から回収された493名(回収率68%)のアンケートの中から、初回参加者178名を分析対象とした。分析方法は、選択肢の質問内容を単純集計し、自由記載については類似する内容にまとめた。

## IV. 結果

### 1. 活動の実際

#### 運営の方法

るかなびには活動に賛同した市民が登録を行い、無償で活動支援を行う市民ボランティアが活動している。市民ボランティアからどのような講座やコンサートに参加したいか意見を聴取し、教職員やボランティアのつてを使い演者を集めている(表1)。市民ボランティア自らが見やすいポスターを作成し(図1)、講座の1ヵ月前

表1 健康講座 講座・コンサートの内容と初回参加者人数

実施時期	健康講座テーマ	コンサートテーマ	初回参加者人数	
2010年度	5月	「バランスの良い食事で代謝を上げよう」	コーラス	16
	6月	「聴くということ」	落語	3
	7月	「タンザニアの現状-エイズの研究を通して-」	ソプラノ独唱	13
	9月	「意外と多い尿漏れ~「予防体操をやってみませんか?」	民謡	3
	10月	「介護に活かそう、五感を潤す知恵と技」	20絃箏	6
	11月	「感染症にご用心~インフルエンザの季節が来る~」	アイリッシュハーブと紙芝居	7
	12月	看護大学生ボランティア活動	コーラス	10
	1月	インフルエンザ撃退手洗いワンポイント	落語	8
	2月	自分の足 見て、触って!	江戸しぐさ	15
	3月	震災後の心の動き ASD	オカリナ	6
2011年度	5月	「お口の健康は元気の源」	落語	7
	6月	「意外と知らない[生もの]の危険」	コーラス	11
	7月	「夏バテを防ぐ食事」	ピアノ演奏	13
	9月	「座った姿勢で腰痛・ひざ痛体操」	沖縄民謡	15
	10月	足爪の切り方	自作の打楽器	5
	11月	姿勢の話	ミニ講座	11
	12月	お口の健康	コーラス	8
	1月	築地界隈を歩こう	二十絃箏&ヴィオラ	7
	2月	ハンドマッサージ	「江戸しぐさ」	5
	3月	こころのアウトリーチケア	アイリッシュハーブ	9

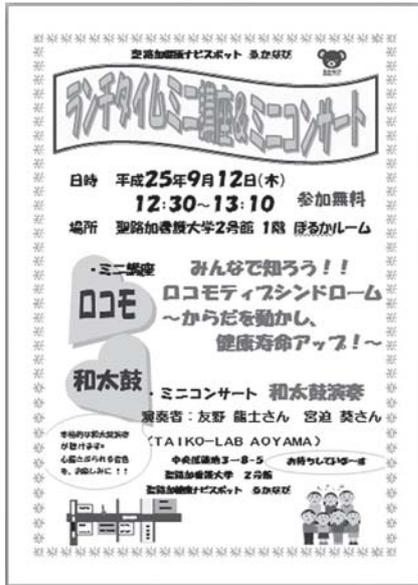


図1 市民ボランティアが毎月作成するポスター

に商業施設や病院など約40カ所にポスターを掲示し、告知している。このようなポスター掲示に協力する店舗は市民ボランティアが直接施設主や店主と交渉し、協力を得ている。当日は市民ボランティアが中心となって参加者のもてなしをしている。席への案内やお茶の提供といった活動で、初めて参加する人でもくつろぐことができるように配慮している。開催時間は参加者が就業中でも参加しやすいお昼休みの時間を意識して開催している。

ミニ健康講座は20分という短い時間でトピックを絞って市民の興味深いテーマをわかりやすく伝えることを主眼としている。看護大学の教員が自らの専門性を活かして市民に情報提供する場にもなっている。また、体操などの参加型の講座が多く、小さな会場で講演者と参加者が一緒に体を動かしたり会話をすることが見られる。

ミニコンサートは健康講座に引き続き行われ、参加者がリラックスしたり、楽しむことを目的としている。演目は音楽だけでなく落語や舞踊も行われている。演者には地元の合唱団や音楽活動家も含まれ、出演をきっかけ

に知人や友人がこのイベントに訪れるのが見受けられる。

## 2. 初回参加者のアンケート結果

### 1) 参加者の特性

初回参加者は女性が141名(79%)であった。平均年齢は55.3歳(±16.2)(図2)で、開催場所と同じ自治体地区(以下開催地区)の居住者が82名(47%)であった。

### 2) 参加のきっかけ

きっかけは「講座が聞きたかった」85件(33%)、「チラシ、ポスターを見て」64件(23%)の順に多かった。その他に、HPやツイッターといったインターネット通信によるものも自由記載に示された(図3)。また、イベントの初回参加者は3名から16名とばらつきがあった。

### 3) 評価

健康講座については、150名(84%)が「よく分かった」と内容が理解できたことを示し(図4)、短時間でトピックを絞って講座に気軽に参加できることへの評価が見られた。コンサートについては、158名(95%)が、「楽しめた」「まあまあ楽しめた」と回答し(図5)、自由記載には「感動する」「癒される」といった和みの場として評価されていた。さらに、154名(87%)が講座への再参加を希望していた(図6)。さらに講座やコンサートに対する評価だけでなく、「いただいたお茶がありがたくおいしかった」「震災の後家で一人だったので、久しぶりに人と話してほっとした」といった、イベントを運営するボランティアに対する評価や、参加者同士の交流に関する自由記載が見られた。参加のしやすさについては「仕事に戻るので、途中退室で残念!」といった時間の合わなさに関する記述が3件あり、「場所がわからなかった」「地図を載せてください」等開催場所のわかりにくさに関する記述が2件あった。「時間が短いのが高齢者には良い。事前申し込みをしなくて良いのが気が楽でいい」というような気軽に参加できることへの評価も見られた。



写真1 ランチャイムミニ講座の様子



写真2 ランチャイムミニコンサートの様子

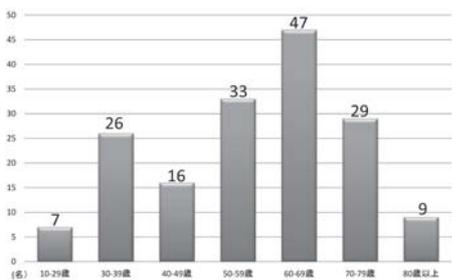


図2 参加者の年代構成 (n=167)

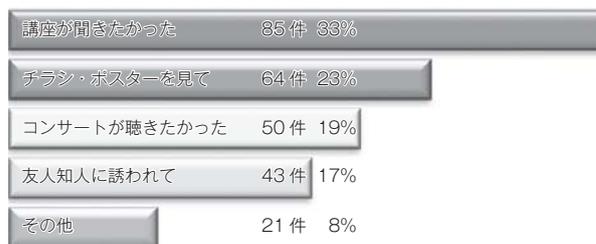


図3 参加動機 (複数回答含む)

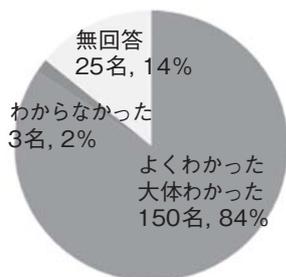


図4 健康講座の評価 (n=178)

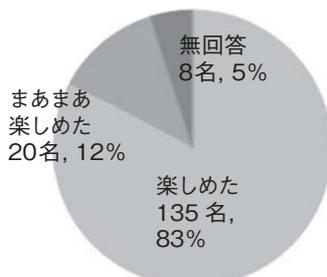


図5 コンサートを楽しめたか (n=163)



図6 再参加の希望の有無 (n=178)

※質問項目を設定していなかった2011年12月-2012年2月までを除いた

## V. 考察

### 1. 参加者の評価

参加者の満足度は高く、健康講座だけでなくコンサートを組み合わせ、かつ短時間で気軽に学びと癒しを体験できる内容は高評価だったと考える。コンサートか健康講座どちらかに関心を持ち参加しても、短時間での提供であるので、飽きることなく過ごすことができ、満足度も高いと思われる。また、参加者とボランティア、参加者同士の交流を、初めての参加者でも持つことができることがわかった。これは、小さなイベントであることや、市民ボランティアによる気軽な話しかけや、すでに常連となっている参加者同士が交流を楽しんでいることが影響していると考えられる。このような参加しやすい「場」づくりを今後も取り入れていきたい。特に外出自体が億劫になってくる高齢者にとっては、無予約で時間が短いという気軽さと、参加費が無料という手軽さに合わせて、トピックが絞られているというわかりやすさがあるため、参加がしやすいスタイルであると考えられる。

### 2. 広報のあり方について

初回参加者の半数は開催地区の居住者であり、これまで行ってきた開催地区へのポスターによる告知は一定の効果があると考えられる。加えて、インターネットを介したHP・ツイッターといった開催地区以外への広報も効果があったと考える。参加者の平均年齢が50歳を超えていることもあり、このような新しい媒体による広告は敬遠されるかと思われたが、新しい媒体を積極的に自分の情報源としている市民がいることがわかった。今後も

様々な媒体での告知を提供し、その講座のテーマに合った告知の方法も考えていきたい。

## VI. おわりに

健康ナビスポットるかなびの主な活動は市民向け健康相談であるが、初めて利用する市民にとって1対1の面談は、緊張を伴うものであることが予測される。そのためこのようなイベントに市民が気軽に参加することが、健康講座の情報の習得だけでなく、るかなびを知り、利用のしやすさにつながることを願って開催を続けてきた。これまで開催してきたランチタイムミニ講座&ミニコンサートの活動評価を行うことで、市民ボランティアが積極的に行ってきた広報や開催当日のおもてなしにより、初めて参加する人々が「楽しめた」「また参加したい」といった快適な状態にあることがわかった。また、健康講座とコンサートを一緒に提供することも参加者の満足を生んでいることが推測された。今後も身近で気軽な市民への情報提供サービスとして活動の発展をしていきたいと考える。

## 謝辞

本事業のような市民に開かれた講座の開催を共同研究事業としてくださったテルモ株式会社様、並びに演者・講師を務めていただいた皆様、るかなび関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

本稿の一部は第17回聖路加看護学会学術大会において発表したものである。